



3階分散型男子トイレ内。さまざまな利用者に対応できるよう、広いスペースの個室を確保した。

学校
トイレ事例
01
新築

石川県金沢市

金沢市立犀桜さいおう小学校

「恥ずかしいことじゃない」
トイレから発信する多様性

大きさ、場所……

いろんな形のトイレを用意

『わあ、きれい！』子どもたちが新校舎に初めて登校した日、トイレの前ではしゃぐ様子を見て、こちらもうれしくなりました」

そう話すのは、犀桜小学校の前田みどり教頭先生です。

2022年3月、新野町小学校と菊川町小学校を統合した、犀桜小学校の新校舎が完成しました。二つの学校が合併したのは、金沢市内、特に中心部の児童数が減少していたことが大きな要因です。新野町小学校に関しては、学級が全体で6クラスにまで縮小してしまっていたといいます。

学校の規模が小さくなると、多様な考え方に触れる機会が減り、人間関係も固定化してしまう恐れがあります。金沢市は、これらの問題を解消するため、統合という決断に至りました。

インクルーシブ教育の二環として、新しい学校では普通教室の他、1階に通級教室、2・3階には特別支援教室が設けられてい

ます。

さらに、支援を要する子どもたちが、できるだけ自力で近くのトイレを利用できるように、各階にバリアフリートイレを設置しました。バリアフリートイレには、オストメイトに対応した設備も備えています。

金沢市教育委員会教育総務課（取材時）の杉下裕治さんは「年齢や性別、身体状況などが制約になったり、トイレを心理的な負担に感じたりしないようにしなければなりません」と言います。

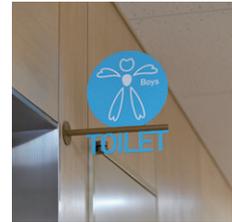
集中型と分散型の
トイレで多様性に配慮

犀桜小学校では、ダイバーシティの観点から、年齢や性別、身体状況などにかかわらず、誰もがアクセスしやすく、安心して過ごせるトイレ空間を目指しています。

トイレの配置についても、男女別トイレとバリアフリートイレを1カ所に集めた集中型の他、男女別トイレを普通教室の端と端に設置した分散型が同じフロアに存在します。学校内なるべく



3階分散型男子トイレ。小便器は床の清掃性に優れた低リップタイプの壁掛自動洗浄小便器。



(左上) 男子トイレのサイン。(右上) 女子トイレのサイン。(左) 学校の校章。犀桜小学校の学校名にも含まれている「桜」をモチーフにデザイン。桜のモチーフは、エレベーターホールのサインなど、いろいろなところにあしらわれている。



3階分散型男子トイレ内、入り口付近の掃除用流し。男女別トイレ、バリアフリートイレ共に、木目調で統一感のあるデザインに仕上げた。



3階オープンスペース。中央の柱には、県産材の木が活用されている。

「排せつをしたくない」といった考えも「恥ずかしいものではないよ」と伝えてあげられるような、トイレ計画が大切だと考えています」

バリアフリートイレの他、分散型の男女別トイレには、一般的な広さの大便器ブースだけでなく、かなりゆつたりとスペースを取った個室トイレも用意しています。支援が必要な児童はもちろん、けがをして松葉杖を使うことになった子どもも使えるようにと設置しました。ブース内には、手すりも設けられています。

「いつ、どういった個性を持つ子どもが、何人入学してくるのか



3階分散型女子トイレ内広め個室。けがをしたときを想定し、手すりを設けた。

「排せつをしたくない」といった考えも「恥ずかしいものではないよ」と伝えてあげられるような、トイレ計画が大切だと考えています」

バリアフリートイレの他、分散型の男女別トイレには、一般的な広さの大便器ブースだけでなく、かなりゆつたりとスペースを取った個室トイレも用意しています。支援が必要な児童はもちろん、けがをして松葉杖を使うことになった子どもも使えるようにと設置しました。ブース内には、手すりも設けられています。

「いつ、どういった個性を持つ子どもが、何人入学してくるのか



校舎の至るところにガラス張りの窓を設置し、光をたくさん取り込む工夫をしている。

3階バリアフリートイレ。オストメイトに配慮した設備や、手すりを備えた。



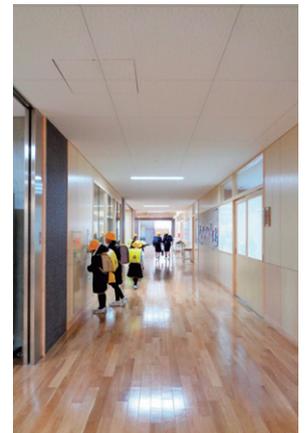
(上)3階男子更衣室。体育やプールの授業の際に利用する。(下)バリアフリートイレのサイン。ピクトの顔に当たる部分を桜の花びらに見立てている。トイレのドアは自動開閉式。



3階集中型のバリアフリートイレと男女別トイレの入り口。バリアフリートイレは、廊下から容易に入れるよう動線を配慮。



3階集中型女子トイレ。明るい光が差し込み、清潔感あふれる空間。



木のぬくもりが感じられる校舎からは、時折、児童たちの楽しそうな会話が聞こえてくる。



3階集中型女子トイレ内手洗いスペース。発電タイプの自動水栓を採用。



男子トイレ。校舎内の大便器はすべて温水洗浄便座と発電タイプの電波式リモコン。

防災に強い 学校施設を目指して

の児童への配慮が、随所にちりばめられています。

犀桜小学校の前には犀川が流れています。大きな水害が発生したときに備え、備蓄倉庫は2階に設置しました。万が一、1階部分が浸水してしまっても、バリアフリートイレは2階、3階にもあるので安心です。なお、学校が避難所となった際には、管理シャッターを下ろせば、教室側と避難所側とで区画を分けることができ、バリアフリートイレは避難所側に含まれるよう設計されています。

金沢市は現在、「木の文化都市・金沢」を掲げています。そこで、犀桜小学校でも、校舎の至るところに木のぬくもりが感じら

れるデザインを施しました。一部は、県産材の木が活用されています。トイレも同様に、壁材などを木目調のテイストで仕上げました。ジェンダーの観点から「男は青、女は赤」とせず、男女別トイレ、バリアフリートイレも、あえて区別のない内装を採用しています。入り口のサインだけは、視認性のために柔らかな色で着色しました。

新しいトイレは児童たちにも好評で「汚したり、いたずらをしたリするような子はいない」と、辻和久校長先生は語ります。

「『時を守り、場を清め、礼を正す』という言葉をも大切に、教育に当たっています。トイレに関しては、二つ目の『場を清め』が該当すると思うのですが、とても大切に思っています。感じますね」



1階体育館トイレ。避難所としても利用される体育館のバリアフリートイレは、乳幼児連れに配慮し、ベビーシートやベビーチェア、フィッティングボードも設置。



左より前田みどり教頭先生、辻和久校長先生、杉下裕治さん(金沢市教育委員会教育総務課/取材時)。



写真奥に見えるのは、体育館トイレの入り口。黒いサインが目印。



学校敷地内には、災害時に備えてマンホールトイレも設置されている。



体育館男子トイレ。さまざまな利用を想定し、男子トイレ内にもベビーチェアを配置した。



屋上プール。災害時にはマンホールトイレの洗浄水として利用される。



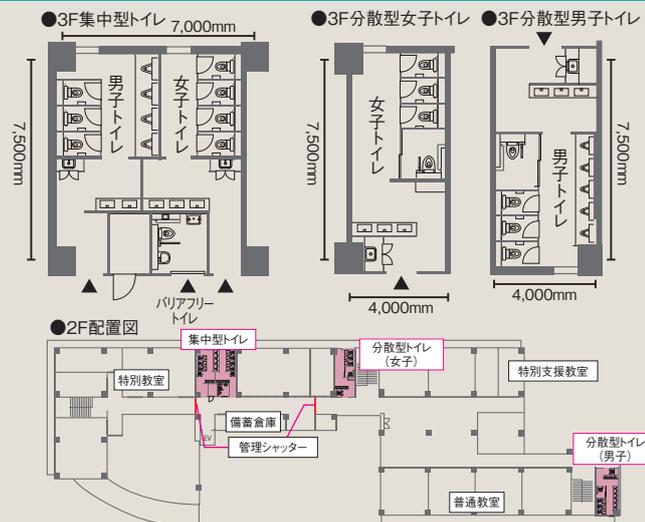
児童が作成した「地いきマップ」。危ない場所、安全な場所が記されている。



図書室。大きなガラス張りからは、犀川方面を見渡すことができる。明るく、自然の光をたっぷり取り込むことのできる室内は、読書環境にも最適。

金沢市立犀桜小学校 DATA

名称：金沢市立犀桜小学校
 所在地：石川県金沢市菊川1-2-15
 児童数：338名(2023年5月)
 施主：金沢市
 設計・監理：大屋設計(建築)、ムラシマ事務所(設備)
 施工：[建築]みづほ・橘・フレックスJV
 [設備]ムラモト・東亜JV(電気)
 日栄・テックJV(給排水)
 サリック(空調)
 竣工年月：2022年3月



「集中型トイレ」は、特別教室からの動線を考慮して位置を決定。災害時は管理シャッターで区画し、避難所として開放できる。児童や教職員が安心して利用できるよう、普通教室側の「分散型トイレ」内にも広めの個室が設けられた。